

令和5年度 事業報告

社会福祉法人川崎ふれあいの会

【1】法人本部 事業報告

【事業目的】

当事者が地域社会で一人の市民として、生き活きと楽しく生活できるよう当事者の人権や自己決定を大切に、だれもが暮らしやすさと安心を感じられる地域作りに努めました。

【事業方針】

無理をせず、あせらず、豊かな気持ちで精神保健福祉に取り組み、地域生活支援システムの充実に努めました。

【目標の振り返り】

令和5年度の法人の重点目標「健全な法人運営を行うため、実行性のある事業計画と事業計画に基づいた根拠ある予算の策定、計画的な資金確保・予算管理が行えるよう法人体制全体の見直しに着手します。」に沿い、法人運営に努めてまいりました。

【令和5年の振り返り】

令和5年度は、6月の理事会にてM監事、I監事、O理事、K理事、Y理事が退任され、新たにO監事、K監事、S理事、Y理事を迎えた新体制のもと法人運営を実施しました。

令和4年度から実施を開始した事業所担当理事制を敷き、各事業所の運営会議等に参加いただき、職員が自ら考え行動でき、かつ持続可能な経営となるよう事業所運営への助言や職員へのスーパーバイズを継続的に実施しました。また、ご利用者へサービス提供にあたり欠かせないサービス管理責任者(以下サビ管)が不在となる事態を改善するため、サビ管育成に努めました。職員の資質向上のため、「支援とは」と題したグループワーク研修を実施し職員同士がチームとしてお互いの考えを知り学び合える場を持ちました。

かねてより課題であった職員就業規則、給与規程等を関係法令に準拠したものになるよう大沢社会保険労務士の助言をうけ改正しました。

財政運営状況は、令和4年度に続き単年度では現状を維持するに留まりました。新たに増室したグループホームの増収等あるなか、改正規定に基づき令和5年度の超過勤務手当を4月に遡り清算を実施したことも要因と考えます。

反省点として、戦略的な事業運営を目指すべく3年5年先を見据えた計画立案は未着手であることが挙げられますが、ようやくそのスタートとなる下地作りを終えた一年でした。

【理事長の執行状況】

4月10日(月) 次期理事候補との面接	
4月18日(火) 次期監事候補との面接	11月17日(金) 理事会、運営会議
4月28日(金) 運営会議及びGH運営会議	11月18日(土) GH増室打合せ、保険契約
5月26日(金) 理事会	11月21日(火) 労基署是正勧告書受取
6月6日(火) 役員及びZOOM運営会議	11月22日(水) 是正勧告に関する事項
6月10日(土) 非常勤職員採用会議(ZOOM)	11月24日(金) 是正勧告報告の文書確認

6月15日(木) 戸塚大沢事務所訪問、他	11月30日(木) 運営会議(研修打合せ)
6月16日(金) 評議員会、理事会、面接	12月1日(金) 運営会議(規程見直し)、研修会
6月23日(金) 会計報告(出席:監事、税理士)	12月8日(金) あしびな検討会議、運営会議
7月11日(火) GH家賃保証契約内容説明	12月21日(木) 川崎北労働基準監督署出張
7月21日(金) 職員面談、その他事務	1月9日(火) 規程の見直し⑦
7月28日(金) GH職員面談、GH運営会議他	1月17日(水) GH事業者番号の統合の相談
8月4日(金) 就労運営について(ZOOM)	1月18日(木) 規程の見直し⑧
8月7日(月) GH会議、オレンジ職員面談	1月19日(金) GH運営会議
8月15日(火) ZOOM運営会議	1月23日(火) 臨時役員会の事前打ち合わせ
8月16日(水) オレンジ職員体制検討	1月24日(水) 臨時役員会
8月17日(木) オレンジふれあい運営検討	1月26日(金) GH移転打合せ①、R6検診打合
8月25日(金) 法人課題教諭、GH運営会議	2月1日(木) あしびな増室事前相談
8月26日(土) 各所の体制等をメール報告	2月2日(金) 事例検討研修、就業規則等会議
9月1日(金) ZOOM運営会議	2月7日(水) オレンジ事業改善検討、その他
9月5日(火) ZOOM運営会議	2月8日(木) あしびな増室等打合せ②
9月11日(月) クリアール田中氏とphone	2月16日(金) オレンジ職員契約更新面接
9月22日(金) ZOOM運営会議	2月22日(木) あしびな(藤光M)賃貸契約解約
10月11日(水) 規程見直し(ZOOM会議)	2月27日(火) 社会保険労務士相談連絡調整
10月17日(火) 職員体制打合せ	3月1日(金) GH運営会議
10月20日(金) グリーンふれあい運営会議	3月11日(月) 職員雇用契約面談
10月26日(木) 職員体制及び変更届(ZOOM)	3月13日(水) オレンジ事業改善ほか(zoom)
10月27日(金) 規程見直し(ZOOM会議)、	3月14日(木) あしびな増室不動産契約重要
10月30日(月) 研修打合せ (ZOOM会議)	3月15日(金) 川崎北労働基準監督署、他相談
	3月19日(火) オレンジふれあいスタッフ会議
	3月21日(木) 職員雇用契約面談(3名)
	3月22日(金) 理事会職員、雇用契約面談

【理事の執行状況】

理事会	5月26日、6月16日、11月17日、3月22日
役員会 (運営に関する会議)	4月28日、6月6日、8月15日、9月1日、9月5日、9月22日、 10月11日、10月27日、10月30日、11月17日、11月30日、12月1日、 12月8日、1月24日
研修	12月1日、2月2日
オレンジふれあい	担当:担当理事2名 職員2名SV(それぞれ月1回)
グリーンふれあい あしびな	担当:担当理事2名 スタッフ会議(月1回)及び職員1名SV(月1回)、職員採用面接 入居者選考・面接、GH運営会議
GH運営会議	4月28日、7月28日、8月25日、1月19日、3月1日

【研修】

- 日程:12月1日(金) 会場:法人本部
 テーマ:「障害者虐待防止」講師:理事長 / テーマ:「権利擁護を理解する」講師:S理事
 参加者:常勤職員5名・非常勤職員6名 録画視聴:非常勤職員4名
- 日程:2月2日(金) 会場:オレンジふれあい
 テーマ:「主体は誰か」 講師:理事長 参加者:常勤職員5名・非常勤職員9名

【事業概要】

障害者総合支援法のもと、就労継続支援 B 型「オレンジふれあい」、グループホーム「グリーンふれあい」、グループホーム「あしびな」を事業展開しました。

法人本部	
職員氏名	常勤職員(事務局長) 随時 非常勤職員(事務局員) 随時

【令和5年度常勤職員異動状況】

退職:令和5年8月31日(1名)

入職:令和5年6月1日(1名)、令和5年7月1日(1名) 計2名

【活動状況】

(1) 理事会・評議員会

- ・令和5年5月26日、6月16日、11月17日、3月22日に理事会を開催しました。
- ・令和5年6月16日に評議員会を開催しました。

(2) 監事監査

- ・令和5年4月19日、令和4年度事業及び決算について監事監査を行いました。

(3) 職員の資質向上

- 各種研修会等への職員の参加機会を持ち、業務・援助の向上を図りました。
- 各事業所スタッフ会議を恒常的に開催しました。

(4) 苦情解決への取組み

利用者からの苦情に適切に対応するため、各事業所に苦情解決責任者、苦情受付担当者を任命し、苦情受付BOXを設置しました。また、第3委員をNPO法人川崎市障害者福祉施設事業協会へ委託し、第3者協力委員の訪問を受け、事業内容や苦情受付体制等の確認及び利用者・入居者と話をする機会を設けました。

事業所名	第3者協力員訪問日、担当者氏名	
オレンジふれあい	訪問日 苦情解決責任者 苦情受付担当者 第3者協力委員	5月19日、8月5日 常勤職員 / 9月1日より 理事長 常勤職員 外部委員
グリーンふれあい	訪問日 苦情解決責任者 苦情受付担当者 第3者協力委員 第3者協力委員	6月12日、10月11日 理事長 常勤職員 外部委員 外部委員
あしびな	訪問日 苦情解決責任者 苦情受付担当者 第3者協力委員	6月27日 理事長 常勤職員 外部委員

(5) 地域連携

各連絡会への加盟や会議へ出席し、地域連携に取り組みました。

社会福祉法人幸ヒューマンネットワーク	評議員:職員1名派遣。(評議員会へ出席)
中原地区精神保健福祉連絡会 (なかはら会)	職員2名派遣 日帰りバスハイク:10月28日 参加者:職員2名、入居者2名 交流会:12月15日 参加者:職員1名、入居者2名

(6) 神奈川県・川崎市・法務局等への届け出経過

4月10日(月) 処遇改善計画書を川崎市に提出

4月11日(火) 共同生活援助事業運営費補助金報告を川崎市に提出(グリーン・あしびな)

5月26日(金) 令和5年度 第1回理事会

6月16日(金) 令和5年度 第1回評議員

6月16日(金) 令和5年度 第2回理事会

6月16日(金) 令和5年度 評議員選任・解任委員会

6月27日(火) 役員の変更届出書を川崎市に提出

7月24日(月) 令和5年度敷金など補助金申請書を川崎市に提出(グリーンふれあい)

7月28日(金) 川崎市障害者共同生活援助事業運営費補助金交付申請書を川崎市に提出
(グリーンふれあい・あしびな)

9月8日(金) 介護給付費算定に係る体制等に関する届出書を川崎市に提出
(オレンジふれあい・グリーンふれあい・あしびな)

9月20日(水) 指定更新申請書を川崎市に提出(あしびな)

11月17日(金) 令和5年度 第3回理事会

<令和6年>

2月13日(火) 令和5年度下半期川崎市介護・障害福祉サービス事業所等物価高騰対策支援給付金交付申請書兼実績報告書を川崎市に提出(グリーンふれあい)

2月15日(木) 令和5年度下半期川崎市介護・障害福祉サービス事業所等物価高騰対策支援給付金交付申請書兼実績報告書を川崎市に提出(あしびな)

2月16日(金) 令和5年度下半期川崎市介護・障害福祉サービス事業所等物価高騰対策支援給付金交付申請書兼実績報告書を川崎市に提出(オレンジふれあい)

3月22日(金) 令和5年度 第4回理事会

【2】オレンジふれあい 事業報告

【事業目的】

「オレンジふれあいの仕事や活動を通し、利用者が自分の能力を発揮し、地域社会で自立した日常生活ができるように支援する」という事業目的に沿って、主として精神障がい者を対象に事業を行いました。

【事業方針】

令和5年度の事業方針に沿い、利用者の意思及び人権を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めました。

【目標の振り返り】

①充実したサービス提供ができるよう作業の拡充を目指します。

→様々な障がいを持つ方が充実した時間を過ごせるよう作業の見直しを行いました。利用者それぞれの力量を踏まえ、自身の能力でできることをより増やしていけるようサポートしながら作業内容の充実を図りました。利用者打合せ・ミーティングで出た意見を尊重し取り入れ、納得のできる環境づくりを進めてまいりました。職員体制が整わなかった時期に関しては、利用者皆さんの協力のおかげで滞りなく作業を進めることができました。

②新規利用者に対し、スムーズに作業や活動に入れるよう配慮します。

→新規利用者それぞれに合わせて配慮した結果、新規登録3名のうち、2名が定着されました。体験利用の際に、作業の見極めを適切に行うことが出来ました。

③面接等相談の機会を設け、安定して通所できるよう支援を行います。

→常時、利用者の体調に配慮し、必要に応じて面接を行いました。利用者本人からの面接の希望があった時は、できる限り速やかに対応いたしました。その内容は職員の打合せ、記録などにより共有し、よりよい支援が出来るように努めました。

④利用者ごとに個別支援計画をたて、目標に沿った支援・作業援助を行います。

→各利用者に適した個別支援計画を立案するため、事前に職員間でモニタリングを実施しました。また、毎日の申し送りや月に1回のスタッフ会議内で個別カンファレンスを行い、目標に沿った支援について確認及び共有を行いました。R5.11～R6.3はサービス管理責任者欠如となり、個別支援計画の作成は行えませんでした。モニタリング月には個別に面接をし、またスタッフ会議内での個別カンファレンスは継続して行いました。

⑤コロナ禍ではありますが、柔軟に対応して施設を開所できるよう努めます。

→コロナウイルス感染症が5月から五類感染症となりましたが、引き続き所内の消毒や手洗いの遂行等行いました。体調不良の方には抗原検査キットで確認してもらいました。また、下期は職員体制が整わない期間もありましたが利用者への不安とならないよう通常通り開所しました。

【事業概要】

事業所名	オレンジふれあい	定員:20名
サービスの種類	就労継続支援B型事業	施設長:米川早苗(～R5.8.31)
開所日・時間	月曜日～金曜日 9時～17時 <祝日・夏期休暇・年末年始は除く>	
職員氏名 及び 勤務形態	常勤職員(施設長・サービス管理責任者・管理者) <31.25h/週> (R5.5.3 退職) 理事(管理者) <1h/週> (R.5.10.20～R6.3.31) 常勤職員(生活支援員) <31.25h/週> (R5.1.4～R6.3.31 育休取得) 常勤職員(生活支援員) <36.25 h/週> 野中裕子(職業指導員) <5.5 h/週> 非常勤職員(職業指導員) <18 h/週> (R5.10.1 入職) 非常勤職員(職業指導員) <6.5 h/週> (R5.10.1 入職) 非常勤職員(目標工賃達成指導員) <36.25 h/週>	
ボランティア	ボランティア 3名(水曜日 2名、在宅 1名)	

【事業活動状況】

- ① 令和5年度内の新登録者及び退所者：新登録者3名、退所者6名
 令和6年3月31日現在登録者 女性11名、男性2名 計13名
 ②登録者平均年齢： 49.6歳(令和6年3月31日現在)

③開所日数及び利用者数

各月の状況		4月	5月	6月	7月	8月	9月
①開所日数		20 日	20 日	22 日	20 日	21 日	20 日
②事業所内利用者数		195 人	218 人	225 人	212 人	209 人	200 人
③施設外就労利用者数		22 人	26 人	23 人	23 人	24 人	19 人
④総延べ利用者数		217 人	244 人	248 人	235 人	233 人	219 人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和5年度	(参考)令和4年度
21 日	20 日	20 日	19 日	19 日	20 日	242 日	238 日
187 人	173 人	154 人	138 人	137 人	153 人	2201 人	2103 人
26 人	26 人	24 人	21 人	22 人	21 人	277 人	266 人
213 人	199 人	178 人	159 人	159 人	174 人	2478 人	2369 人
						平均利用人数	10.2 人
							10.0 人

*令和5年度事業計画：開所見込み日数241日、利用者延人数目標2,890人

④ 事業内容及び活動報告

	事業内容	活動報告
1	月～金曜日のプログラム	<店舗営業>月～金(10:00～17:00) 祝日・年末年始を除く <作業内容> ①手芸作業：エプロン類・ポーチ類等の布製品作成 ②内職作業：請負作業(荷札・筆記具組立)、ビーズ小物製品作成 ③施設外就労：洗濯作業 月・火・水・木(9:30～12:00) <メンバーミーティング>月に1回利用者ミーティングや利用者打合せを行いました。 <バザー参加>7月、8月、12月の3回参加しました。(令和4年度3回)
2	レクリエーション等の提供	<茶話会>2ヶ月に1回ミーティング後に希望者で茶話会を行いました。 <食事会等>12月にクリスマス会、3月に外出レクを行いました。
3	カンファレンス実施状況	<スタッフ会議>月1回実施。また、随時施設内にて個別カンファレンスを実施。 <関係機関と連携した個別カンファレンス>10件実施しました。

⑤ 令和5年度事業活動状況振り返りと今後の活動について

令和5年度は職員の入退職等の環境の変動が多い中、職員間の連携を取りながら作業やバザー参加、食事会の開催等、令和4年度と変わらない形での開所を行うことができました。その結果、平均利用者数が令和4年度より増え、10名を超えました。退所者が6名となりましたが、各利用者に適した場へとステップアップできた事例が多く、適切な支援や援助を行った結果だと考えます。しかし、比較的新しく入所した利用者の継続通所には至らず、令和6年度以降により包括的な支援を行っていく必要があると思います。

令和6年度の取り組みとしては、余裕をもった職員確保が出来たため、相談支援センターなどへの営業を再開します。通所交通費支給の他、オレンジふれあいの強みをアピールし、新規利用者の獲得と安定した継続通所を目指していきたく思います。そのため、現状の作業だけではなく新規の作業開拓や職員のスキルアップのための研修を積極的に行っていきたいと考えております。

【就労支援事業】

①就労支援事業収支状況

手芸収入		前年度比	内職収入		前年度比
売上			売上		
店舗	384,410	22,250	店舗	12,200	950
バザー	126,300	△ 32,850	バザー	22,300	12,230
その他	4,500	1,100	請負	399,347	△ 96,132
合計	515,210	△ 9,500	施設外	480,000	7,500
			合計	913,847	△ 75,452
手芸支出			内職支出		
材料	156,258	△ 30,730	材料	0	△ 40,196
工賃	470,829	67,644	工賃		
その他	30,210	26,430	製品・請負	745,106	△ 101,841
合計	657,297	63,344	施設外	218,770	△ 4,308
			その他	3,290	3,290
			合計	967,166	967,166

②令和5年度就労支援事業活動状況振返りと今後の活動について

手芸: 店舗売上が前年度比 7%増となりました。巾着袋をはじめとした小物製品の動きが好調で人気の品となっています。丁寧な縫製を心掛け、品質のよいものを提供できている状況について今後も維持していきたいと考えています。バザーについては前年比 2 割減となりました。職員の人員の関係もあり、5 万円前後の売上をつくれる溝の口バザーへの参加回数が減少、初参加の平間銀座サマーフェスタでは単価の低い小物中心に販売し開催時間も短かったことが要因として挙げられます。今後、参加回数を増やしていくことで収入アップに繋がれる可能性が多分にあると考えます。材料購入については利用者3名と1月に実施。作り手自身が生地選び等を行うことによって、モチベーションアップにも繋がると考え行いました。

内職(ビーズ小物製品):

令和5年度の売上は店舗・バザーを合わせて 34,500 円となり令和 4 年度より+13,180 円となりました。店舗での売上は+950 円とやや増加、バザーでの売上は平間銀座サマーフェスタでビーズ製品が好調だったこともあり+12,230 円と大幅に増加していることから、バザーでの売上げの見込める商品と考えられます。

内職(請負作業):

令和 5 年度も筆記具の組立作業、荷札の制作作業を行いました。

(筆記具組み立て作業) 利用者の人数や適性により、より多くの注文が受注できるように取引先との調整を随時行い、適宜職員が介入して納期に間に合うように進めてまいりました。令和 5 年 9 月より職員の作業介入度を減らし受注数を減らしたことが要因で、収入は令和 4 年度比 △96,132 円となりました。単価の高い作業は、その分技量が求められ、利用者全員にマッチした作業となりづらいため、単価の高い製品を受けるよりも、利用者数を上げ、受注量を増やして増収に繋がっていきたいです。また、職員の作業介入度についても令和6年度検討してまいります。

(荷札) 単価は0.7円と低く、就労支援事業収入には貢献できませんでしたが、利用者誰でもできる作業であること、隙間時間にできる作業であることなど作業提供において役割は大きいです。納品や材料調達に課題もあり、令和 6 年度は荷札に代わる作業についても検討していきます。

内職(施設外就労):

利用者の安定通所により年間を通じて順調でした。作業内容を工夫し、作業効率もアップできました。施設内作業と比較して工賃時給も高く、また外部の方と接する機会もあり、より就労に近い環境を提供することができ、ステップアップを希望する利用者が活躍する場面ともなりました。就労支援事業収入に大きく貢献している一方で、施設外平均利用者数は 1.45 人(190 日/277 人)と伸びず、事業運営的には貢献できていない状況が続いており、今後の施設外作業の展開については検討事項となっています。

【3】グリーンふれあい 事業報告

【事業目的】

地域で生活することを希望する障害者に対して指定共同生活援助事業を提供し、相談、その他日常生活に必要な援助等を行うことにより、入居者の地域生活を支援し、自立と社会参加を促進した。なお、主として精神障害者を対象に事業を行った。

【事業方針】

令和5年度の事業方針に従い入居者の人権を尊重し、入居者の立場に立ったサービスの提供に努めた。

【目標の振り返り】

- ① 新型コロナウイルスの通達関連など動向を注視し、安全な場の提供とともに危機管理体制を職員間で共有する。
 →新型コロナウイルスが2類から5類に変更となり、フリースペース開放や食堂での食事等、引き続き安全な場の提供を意識しながら、徐々にコロナ前の状況に戻っていった。
 グループホーム運営や社会生活等にかかわる通達は入居者・職員に個別に周知した。入居者が発熱をした場合は、抗原検査キットで検査をし、陽性だった場合は医療機関への通院、食事は部屋食にし、他の入居者や職員に感染が広がらないよう配慮した。
- ② 入居者の希望や状況に合わせて支援内容を考え、個々の生活に沿った目標のための支援を行う。
 →服薬確認、受診・買い物等外出同行、夕食提供等、個々の状況・目標に合わせて柔軟に対応を行なった。
- ③ 入居者が日中活動の場へ参加できるよう、支援する。
 →新型コロナウイルス2類から5類に変更となり、通所先も通常通りに戻ってきた。入居者には通所へ向けた声掛けをし、通所出来ない入居者には通所出来る場所を考えるなどの支援を行った。

【事業概要】

事業所名	グリーンふれあい	定員 及び 体制	定員:14名 体制:5対1 <R6.2から4対1>
サービスの種類	共同生活援助(グループホーム)		
共同生活住居	①グリーンふれあい(定員9名) ②グリーンふれあいⅡ(定員5名)		
サービス提供日	令和5年4月1日～令和6年3月31日(366日)		
利用人数	区分2:2, 227人 区分3:1, 474人 区分4:614人 合計4, 315人(内訳 グリーンふれあい2, 486人 グリーンふれあいⅡ1, 829人) (グリーン全体前年度3, 114人)		
職員氏名 及び 勤務形態	常勤職員(施設長・サービス管理責任者) <31.25h/週> 常勤職員(管理者・世話人) <36.25h/週> (R5.5.31退職) 常勤職員(管理者・世話人) <36.25h/週> (R5.7.1入職) 常勤職員(世話人・生活支援員) <36.25h/週> (R5.6.1入職) 非常勤職員(世話人) <16.5h/週> (R5.4.30退職) 非常勤職員(生活支援員・世話人) <11h/週→27.5h/週→30h/週>		

非常勤職員(世話人) <6h/週> 非常勤職員(世話人) <80h/月> (R5.4.1 入職) 非常勤職員(世話人) <12h/週> (R5.9.5 入職) 非常勤職員(世話人) <18h/週> (R5.12.27 入職) 非常勤職員(世話人) <12h/週> (R6.3.15 入職)
--

【活動状況】

<共同生活住居①グリーンふれあい>川崎市幸区東古市場18-13 コフレイースト205号室

①令和5年度内の入退去者 : 新入居者 5名(自宅より4名、他施設より1名)、退去者 0名

(令和6年3月31日現在:男性6名、女性3名入居)

②入居者平均年齢 : 49.2歳(令和6年3月31日現在)

③居室の稼働率(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

コフレイースト 101	コフレイースト 102	コフレイースト 103	コフレイースト 104	コフレイースト 105	コフレイースト 201	コフレイースト 202	コフレイースト 203	コフレイースト 204
100%	100%	100%	100%	68%	53%	6%	68%	86%

<共同生活住居②グリーンふれあいⅡ>川崎市中原区上平間1700-146 ルナハイツ101号室

① 令和5年度内の入退去者 : 新入居者 0名、退去者 0名

(令和6年3月31日現在:男性1名、女性4名入居)

② 入居者平均年齢 : 48歳(令和6年3月31日現在)

③ 居室の稼働率(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

ルナハイツ 201	ルナハイツ 203	ルナハイツ 301	ルナハイツ 401	ルナハイツ 402
100%	100%	100%	100%	100%

④ 事業内容及び活動報告

内容	令和5年度実施状況
日常生活支援	<p>個々の状況に合わせ、サポート内容や頻度を調整し対応した。</p> <p>同行・代行:必要に応じて役所や受診、買い物等の同行や代行支援を行った。</p> <p>当番:外掃除を全員で行うことによって、入居者同士が挨拶や会話をすることで交流も深まり、災害などがあつた時に、お互いが助け合う事が出来るよう支援を行った。夕食当番も再開し、調理から盛り付けまで、一人暮らしをしても困らないよう支援を行った。</p> <p>健康管理:年1回健康診断を受けることとし、必要に応じた支援を行った。</p> <p>日中活動支援:新型コロナウイルスも5類に変更となり、活動先もコロナ前に戻ってきた。日中活動を行う事が出来ない入居者には、入居者に沿った活動先を一緒に考え、通所出来るよう支援を行った。</p> <p>服薬支援:服薬確認のほか、必要に応じて薬のセットや調剤薬局同行を行った。</p> <p>ミーティング:入居者のミーティングもコロナ前に戻り、全員で行う様になった。全員で集まる場所が取れないコフレでは2回に分けて行い、伝達のもれがないよう配慮した。毎月この時間を設けることによって、入居者同士の交流も戻り、笑顔で話をする事も見られた。ルナハイツでは個別にミーティングを行なった。伝達漏れが無いよう、ミーティング資料を作り読み上げた。</p> <p>相談支援:コフレではフリースペースの時間を作り、対面での相談や支援が行えるよう対応をした。ルナハイツでは時間を決めて相談や支援が行えるようにし、緊急の相談事は夕食後に相談や支援が行えるよう対応した。</p>

食事の提供	<p>祝日を含む月曜から日曜 366 日、夕食を提供した。(年間延べコフレ 1,567 食、ルナハイツ 1,275 食)。</p> <p><u>ルナハイツ</u>:平日は入居者と職員が隔週メニューを交代で決め、土日祝日は職員が決めた。1食 500 円で提供し、前日 19 時までキャンセルの申し出ができるよう配慮した。キャンセルの集計をし、翌月初旬に返金した。誕生日月は好きなメニューを決めて頂き、お弁当やデリバリーなどで、誕生日会を行なった。食事時間を一人ずつずらし、なるべく重ならないよう配慮した。</p> <p><u>コフレ</u>:職員が事前にメニューを決め、入居者が嫌いなメニューをキャンセル出来るよう配慮した。1食 500 円で提供し、前日まで(同年月より前日 19 時まで)にキャンセルの申し出があった場合、食費の返金を行った。誕生日は誕生日の入居者に好きなメニューを考えてもらい、お弁当やデリバリーなどで誕生会を行った。食事中はマスクを外すため、1 度の利用を 4 名以内に抑え、時間差をつけて食事を提供した。</p>
個別支援計画	<p>半年に1回モニタリングを行い、振り返りや今後の目標について検討し、個別支援計画の作成を行った。計画変更希望のない入居者に対しても1年に1回は個別支援計画の再作成を行った。</p>
関係機関との連携	<p>相談支援センター、日中活動先、保健福祉センター、福祉事務所、医療機関を中心に支援者会議を開催し、連携し援助を行った。</p>
職員の資質の向上	<p>コフレイーストとルナハイツ合同でスタッフ会議を開催し、開催時にはスーパーバイザーの方に参加していただいた。また、コフレイーストは移転後初年度及び増員5名ということもあり、合同とは別に単独でスタッフ会議を開催した。また、法人の内部研修への参加の他、外部研修への参加を促した。</p>
虐待防止と権利擁護	<p>第三者委員会より協力委員の訪問が2回あり、1回目は前任者とともに来所があった。事前に周知したが、個別でお会いする希望者がいなかったため、両日職員で対応した。身体拘束適正化及び虐待防止に関する規程や指針を整備し、委員会の設置した。</p>
非常災害対策	<p>消防立ち入り検査、設置業者による消防機器の点検は通常通り行なわれた。入居者と防災ミーティングを行い、地震・洪水時の避難場所について話し合った。一次持出品の確認、非常食や水等の備蓄品のリストを作成し、各入居者が準備をする物、事務所に備蓄している物を周知。入居者の備蓄品については確認することが出来なかった。全員での避難訓練は行えず、来年度に持ち越しとなった。</p>

【4】あしびな 事業報告

【事業目的】

地域で生活することを望む障がい者に対して共同生活援助事業を提供し、相談、その他日常生活に必要な援助等を行うことにより、入居者の地域生活を支援し、自立と社会参加を促進しました。なお、主として精神障がい者を対象に事業を行いました。

【事業方針】

令和5年度の事業方針に従い入居者の人権を尊重し、入居者の立場に立ったサービスの提供に努めました。

【目標の振り返り】

① 新型コロナウイルスの通達関連動向を注視し、安全な場の提供とともに危機管理体制を職員間で共有する。

→ 毎日の検温や消毒、換気を行い感染予防に努め、安全な場の提供に務めました。

② 入居者の希望や状況に合わせて支援内容を考え、個々の生活に沿った目標のための支援を行います。

→ 入居者ひとりひとりの特性を理解し、目標に沿った支援を行えるよう個別面談を行いました。月1回のスタッフ会議を開催し統一した支援ができるように務めました。

③ 入居者が日中活動の場へ参加できるように、支援します。

→ 入居者が希望する日中活動について確認を行い、各関係機関と連携し利用開始、及び利用継続できるよう支援を行いました。

【事業概要】

事業所名	あしびな	定員 及び 体制	定員:9名 体制:5対1 <R5.10より4対1>
サービスの種類	共同生活援助(グループホーム)		
共同生活住居	① あしびな(定員2名) ②あしびなⅡ(定員7名)		
サービス提供日	令和5年4月1日～令和6年3月31日(366日)		
利用人数	区分2:1,195人 区分3:1,666人 区分4:232人 合計3,093人(内訳 あしびな1,798人 あしびなⅡ1,295人) (前年度2,728人)		
職員氏名 及び 勤務形態	常勤職員(施設長・サービス管理責任者)<5h/週> 常勤職員(管理者・世話人)<36.25h/週> 非常勤職員(世話人)<20h/週> 非常勤職員(世話人)<11h/週>(R5.4.30退職) 非常勤職員(世話人)<18h/週>(R5.12.31退職) 非常勤職員(生活支援員)<24h/週>(R5.4.1入職) 非常勤職員(世話人)<18h/週>(R6.1.7入職)		

【活動状況】

① 令和5年度内の入退去者 : 新入居者1名(自宅より)、退去者1名(入院)

(令和6年3月31日現在:男性6名:女性3名入居)

② 入居者平均年齢:平均 45歳(令和6年3月31日現在)

③ 居室の稼働率(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

藤光マンション 101	ハイツヘルシー 103	ハイツヘルシー 105	ハイツヘルシー 203	ハイツヘルシー 303	ハイツヘルシー 305	ハイツヘルシー 403	ハイツヘルシー 503
98%(入院) 100%	100%	91%(外泊)	100%	63%(入替)	100%	93%(外泊)	99%(外泊)

④ 事業内容及び活動報告

内 容	令和5年度年度実施状況
日常生活支援	<p>個々の状況に合わせて、サポート内容や頻度を調整し対応した。</p> <p>同行・代行:必要に応じて役所や受診、買い物等の同行や代行支援を行った。</p> <p>健康管理:年1回健康診断を受けることとし、必要に応じて同行支援を行った。</p> <p>日中活動支援:コロナ禍で利用に制限があった期間もあり、日中の状況を細目に確認するようにした。</p> <p>服薬支援:服薬確認のほか、必要に応じて薬のセットや調剤薬局同行を行った</p> <p>ミーティング:新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、全員集まっては行わず、3部に分かれて開催をした。感染者増加時には個々へレジュメの配布に切り替えた。</p> <p>相談支援:日常生活において必要に応じて随時行った。</p>
食事の提供	<p>祝日を含む月曜から日曜 366日、夕食を提供した(年間延べ 1,933食)</p> <p>職員がメニューを決め 1食 500円で提供し、前日 19時までにキャンセルの申し出があった場合、食費の返金を行った。入居者にはマスク着用の徹底、来所時の体温の測定にて体調管理を行い、体温高値の方については、お弁当にして持ち帰り食堂への入室を控えていただいた。</p> <p><新型コロナウイルス対策>誕生月の入居者の希望を取り入れ、外食は中止し、ホームで誕生会を行った。食事中はマスクを外すため、3グループに分け時差で食事を提供した。</p>
個別支援計画	<p>半年に1回モニタリングを行い、振り返りや今後の目標について検討し、個別支援計画の作成を行った。計画変更希望のない入居者に対しても1年に1回は個別支援計画の再作成を行った。</p>
関係機関との連携	<p>相談支援センター、日中活動先、保健福祉センター、福祉事務所、医療機関を中心に支援者会議を開催し、連携して援助を行った。</p>
職員の資質の向上	<p>スタッフ会議を月1回開催し、開催時にはスーパーバイザーの方に参加していただいた。</p> <p>法人の内部研修への参加の他、外部研修への参加を促した。</p>
虐待防止と権利擁護	<p>第三者委員の訪問が再開され、希望者には自宅訪問が行われた。都度、第三者委員の窓口の電話等入居者へ周知した。今年度訪問1回:希望者0名。</p>
非常災害対策	<p>新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、消防立ち入り検査はなかったが、消防機器の点検は通常通り行なわれた。非常食品の賞味期限のチェックを行った。全員での避難訓練は行わず、個別に確認を行った。</p>